

# 中小企業 人材確保 推進事業 経過報告

一昨年より、雇用・能力開発機構のご協力のもと、中小企業人材確保推進事業に取り組んでおり、2年目にあたる今年度は、いくつか新しい事業も実施しています。特にイメージアップに関する事業については下記の通り実施されています。

## 1. ラジオCM

北陸放送、エフエム石川で10月から12月まで放送。内容は次の通りで、BGMは有線で毎朝流れる「金沢問屋センターの歌」。  
「といやまち 創って魅せる 目きき街、  
といやまち 創って魅せる 目きき街  
キマッシカナザワの金沢問屋センターです。私達は活力ある流通  
情報発信基地を目指します」

## 2. 駅貼りポスター

JR金沢駅にポスター掲示



## 3. 駅貼りポスター

北陸鉄道電車浅の川線の各駅(北鉄金沢・割出・内灘)にポスター掲示



## 5. バスの社内放送

三浦住宅近辺をバスが通過するときに、次のナレーションが流れる。  
「次は三浦住宅、三浦住宅でございます。  
『気をつけて 朝の一言 忘れずに』  
このキャンペーンは『といやまち  
創って魅せる 目きき街 キマ  
ッシカナザワ』の協賛です」

## 4. 北鉄バスの後部窓に スローガン入りの ステッカーを貼付



①は既に放送を終了していますが、②③④についてはもうしばらく継続するので、機会があれば、ぜひご覧いただきたい。又、⑤に関しては、中小企業人材確保推進事業の補助ではなく、組合の予算で実施しています。今年の12月まで実施しますので、バスに乗る機会がある方はぜひお聞き下さい。



## 事務局だより

# INFORMATION

11月

- 4日 理事会
  - 1. 総務委員会より
    - (1) 平成16年度中間決算報告について
    - (2) 旧 補助跡跡地に入居する住宅の取り扱いについて
  - 2. 厚生委員会より
    - (1) 経営者研修会について
    - (2) 年金移動相談について
  - 3. 組合運営委員会より
    - (1) 防犯灯ペンキ塗り替えについて
    - (2) ごみ料金の変更について
    - (3) 高速道路料金別納制度について
  - 4. 事業戦略委員会より
    - Kimassiデータベースシステムに係る機器の代替について
  - 5. 青年部会より
    - CD-ROMの配付について
  - 6. 事務局より
    - 歩道の再整備について
- 15日 経営者研修会
  - 「兼六園—その成り立ちと素顔—」

- 29日
  - 下郷稔氏(元兼六園管理事務所長) 19社 20名出席
  - 高速道路通行料金に係る新しい共同事業の実施について 募集
  - 高速道路通行料金 大口・多頻度割引制度に関する調査の集計結果報告

12月

- 3日 理事会
  - 1. 総務委員会より
    - (1) 尚和印刷保証人について
    - (2) 新年祭について
    - (3) 新年互礼会について
    - (4) 新入社員歓迎式について
    - (5) 集団健康診断の実施について
    - (6) 理事の定数について
  - 2. 厚生委員会より
    - (1) 経営者研修会結果報告
    - (2) 第10回スキーツアーについて
    - (3) 年金移動相談結果報告
    - (4) 雇用管理改善セミナーについて
  - 3. 組合運営委員会より

高速道路通行料金に係る新しい共同事業の実施について

- 4. 事業戦略委員会より
  - 情報化セミナーの開催について
- 5. 事務局より
  - (1) 事務局の年末年始休日、12月29日午後から1月3日まで
  - (2) 「金沢商人塾」第4回講演会開催について
  - (3) 新潟県中越地震災害義援金について
- 17日 情報化セミナー
  - 「時代は変わる、変われ経営者～インターネットがいなくなる日」
  - 榎ヨースマー 代表取締役 野口高志氏 27社 50名出席

## 編集後記

昨年は大変な年でした。相次ぐ天変地異、台風が10回も日本を襲い大変な風水害をもたらし、中越地震などもあり、イラクにおいては相変わらずテロなどが頻発しており、さらに年末にはスマトラ沖で大地震があり大津波が発生しました。その結果、昨年一年を象徴して漢字一字で表現すれば「災」という字が選ばれました。2005年はとり年ですが、それこそ「災い転じて福となす」で、鶏が、あの一番鶏が高らかに声を上げて夜が明けてくる、だんだん日が差してきて明るい希望への予感のするような転換の年となるよう、一日を大切に日々精進しようと思います。(T・K)

# Kimassi

# KANAZAWA

JANUARY 2005 KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS 金沢問屋センターニュース  
URL <http://www.kimassi.or.jp/>

Vol.91  
January

平成17年新年互礼会 理事長年頭挨拶  
平成17年の経済見通し  
酉年男、大いに語る  
元気な組合員企業紹介  
中小企業人材確保推進事業経過報告



# 平成17年 新年互礼会 理事長 年頭挨拶

協同組合 金沢問屋センター 理事長 富木 昭光

皆様、新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年の出来事を振り返って見ますと、経済面では大手製造業を中心とする業績回復、中国特需、薄型テレビ等の家電製品の買い替え需要の高まりなどで、明るい兆しも見えました。

社会面では、アテネオリンピックの好成績や、郷土の松井選手の活躍・イチロー選手の安打262本の新記録達成、ゴルフと卓球でのあい（藍・愛）ちゃんフィーバー、又、冬のソナタの放送から始まる、ヨン様と韓流ブームが起こるなど明るい出来事があり、また、年末には紀宮様のご婚約というおめでたいニュースもございました。

一方、記録を更新する台風上陸により全国的風水害、追い討ちをかける新潟中越地震の発生、年末にはスマトラ島沖地震とインド洋大津波があり多数の犠牲者が出ました。

被災者の皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

そのほかに、三菱ふそうの度重なるリコール隠し、相次ぐオレオレ詐欺被害、熊騒動、国民年金未納問題など、暗い影を落とした年でもありましたが、今年こそ我々中小企業にも景気の恩恵が受けられる年にし

たいものと願っております。

ここで、昨年の当組合に関する動きについて少々ご説明させていただきます。

①3月に金沢市と「まちづくり協定」を締結致しました。

「商人の町」として、ビジネス展開をサポートし、働く人に快適で、訪れる人を暖かく迎えられる町の実現を目指したいと考えたものであります。

②4月11日には、念願の「浅野川せせらぎ橋」が完成しました。

交通アクセスが大幅に向上しましたので、組合員一同大変感謝致しております。

③7月には、塾生31名を集め「金沢商人塾」を新しく開講致しました。

「金沢商人塾」の目的は、永続的に成長する企業をつくるために、中国古典などから経営者としての王道と人づくりの大切さを学ぶことにあります。中国文学者そのほかさまざまな講師をお招きして、年に6回の講義を受けることになっております。

主催は当組合であります。金沢市と金沢商工会議所のご後援を得て開催しているものです。

④8月には「キマッシカナザワちびっ子わくわくランド」を開催致しました。

きまっし広場と流通会館前にミニ遊園地



が作られ、約3,000人の親子連れで賑わいました。

このイベント開催の目的は、組合員及びその従業員と地域住民の方々との交流の場として、又、賑やかさの創設と元気で活気あふれる問屋町の町づくりを目指すための事業の一環であります。

今年も様々なイベントを企画し、賑やかさの創設に努めたいと考えております。

さて、今年の組合運営の一部をご紹介します。

組合の総合診断事業であります。既に、昨年8月に中小企業基盤整備機構よりアドバイザーの派遣を頂き、診断を受けました。

その結果、団地運営は割合うまくいっているとの評価を頂きました。特に組合が中長期ビジョンを策定したことは良い、ということでもあります。ただ、ビジョンの中の「戦略的な経営組織として、組合員の意識改革及び経営革新を実行し、21世紀の流通を展開する」というフレーズを重点におき、具体的戦略とアクションプランを落とし込む必要がある、とのご指導を受けました。

この組合の総合診断事業は、今年も新しいアドバイザーから引き続き診断を受ける予定を致しております。

これら診断結果を踏まえ、今後「どのように組合員のお手伝いをし、サービスができるか」を考え、皆様に「金沢問屋センターの組合員で良かった、頼りがいがある」と言われるように、第三者の目を通して診断・評価を受け、その結果を真摯に受け止め、将来の組合運営のあり方を検討して参りたいと思っております。

更に、「金沢商人塾」は、積極的に展開し継続していく所存であります。「企業は人なり」と申しますが、当組合で優秀な人材を育て、又、優秀な人材にこの問屋町に来て貰うためにも開講を続けたいと考えております。

既に4回の講義が終わり、多くの塾生から喜ばれております。私も塾長として毎回講義を拝聴しておりますが、その一部をご披露したいと思います。

菜根譚の中に「徳は事業の基なり」とありますが、「徳」とは「謙虚さ」と人間としての心の温かさ、思いやりや、世の中のために役立つ気持ちであり、そういう気持ちを持って事業にあたれば成功する、ということです。

論ずるより実践することが大切であって



## 平成17年の経済見通し

### 「攻め」への転機の年

商工中金 金沢支店長 小田切 弘文

新年明けましておめでとうございます。昨年は組合ならびに組合員の皆様に格別のご愛顧賜りましたこと深く御礼申し上げます。

以下、平成16年の回顧と平成17年の展望について述べさせていただきます。

#### 平成16年の回顧

昨年は、好調な外需を主導に日本経済は再生への道のりに乗り出した年であると言えます。

まず、海外経済については、米国経済は雇用環境の改善が続き、個人消費や住宅投資が堅調に推移しました。企業部門でも好調な企業収益を背景に設備投資が増加しました。アジア経済は中国を中心に景気の拡大が続き、特に中国では年初より固定資産投資が高い伸びとなったことから、景気引き締め策が採られるほどの高成長となりました。欧州経済も世界経済の回復を受けて輸出や生産が増加し、穏やかな景気回復の動きが続き、ただ、米国経済や中国経済は年央以降、原油価格の高騰や金利の引き上げの動き等を受けて景気拡大の勢いはやや鈍化しました。

こうした海外経済の動向を受け、我が国経済も前半には輸出が高い伸びとなりま

した。特に景気拡大が鮮明となった中国向けは大幅な増加が続き、輸出の拡大を受けて生産活動が活発になったことに加え、企業のバランスシート調整が進展したことから企業業績も大幅な増収増益となりました。これらに加えデジタル家電等の需要が好調に推移するなど内需も堅調に推移したことから、設備投資も増加しました。ただ年央以降、海外経済の拡大の勢いが弱まると輸出や生産の伸びも鈍化しました。

原油価格を始めとする素材価格の高騰や円高の進展から先行き不透明感が広がり、設備投資は頭打ちとなりました。

中小企業の動向を見ますと、当金庫の「中小企業月次景況観測」の景況判断指数が、好調・悪化の分岐点である50を超えるなど、中小企業の景況感も改善しました。売上高の増加が続き、企業収益も改善するなど、中小企業の業績にも回復の動きが広がりました。しかしながら、改善の度合いには地域や業種によるバラツキも残り、景況感の動きも年央以降は頭打ちとなるなど全面的に景気回復を実感できる状況には至りませんでした。

#### 平成17年の展望

米国や中国の景気拡大の動きが緩やかに

いずれの事業も、組合員各位のご協力無しには成しえませんが、絶大なご協力とご支援をお願い申し上げる次第であります。

組合員の皆様のご繁栄とご健勝をお祈り致しまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。





## 酉年男、大いに語る

# 「和」の「魅力」と「楽しさ」を伝える。



糸生株式会社  
常務 小阪 将充

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。京都の和装メーカーより、家業に入って早7年目、私も今年で36歳となります。昨年は災害が多い年でしたが、今年私は酉年の年男ですから、明るい1年の幕開けを伝えより高く飛躍できるようがんばりたいと思います。

さて、近年「和装離れ」なる言葉をよく耳にします。和を商売として扱う私どもにとっては「和装離れ」など非常に寂しい話です（商売抜きでも日本人が自国の民族衣装から意識が離れるなど寂しい話です）。

かつての和装業界は大変大きなマーケットを有していました。京都では「石を投げれば呉服屋に当たる」という諺があるくらいです。しかし、和装が生活に密着した衣類から、礼装品・贅沢品・趣向品へとウェイトがシフトしていく過程において業界が隆盛を極めていた時代から現在に至る間遣り残したことが多く、変化・縮小したマーケットへの対応、大手メーカーや業界ぐるみによる、コマース活動・製造改革・流通改革の遅れや、そのほか作り手の高齢化、若手の育成といった問題が挙げられます。また、価格統制の遅れと共にごく一部で行われた紛らわしい販売手法（プレゼント商法等）が価格に対する不信感をよりいっそう高めた状況もあると考えます。ほか、業界が抱えた問題ばかりを挙げればきりがありませんが、悲観的現状にも目をそらすことはできないと考えます。

### 今後「和装業界」は どうなるのでしょうか。

我々が主にターゲットとするエンドユーザーの年代は幅広いですが、中でも主に

50~70代を中心とした、そろそろ子育てを終え、今後第二の人生を迎えようとする壮年から熟年層の女性のウェイトが非常に高いです。この年代は非常に活動的で購買意欲があり、また団塊世代とも呼ばれ、その人口は大変な数となります。これは、これ以上ない有望なマーケットです。この年代の女性像は「一女性への回帰」です。長年、母として妻として多忙な日々を過ごしていた女性が、再び自由と若かりし日の夢を取り戻し、個性豊かな一人の女性へ戻るわけです（昔、着ることが叶わなかった振袖を、一度でいいから着てみたいと、自分のために購入した70代女性を私は知っています）。彼女たちは以前より比較的自由なお金と自由な時間を持って生きています。私の知っている限り、彼女たちは「唄や、踊り、芸能、おしゃれを楽しみ、話し好き、遊び好き、趣味も多様で、グルメ、高級志向」です。年金生活の方もいますが、「仕事」や「夢を追い求めて」エネルギーに活躍する方もいます。特価品のTシャツを着ることがあっても、社交ダンスで何十万のドレスを着たり、何十万の宝石や、ブランド品より高価な本皮のバッグを身に着け、演劇を観劇し、ファミレスでなくホテルでランチとおしゃべりを楽しんだりします。我々の業界は実はこれ以上ない超有望なユーザーを多数相手としています。（そういった世代が中心となったヨン様ブーム一つとっても2300億円とも3000億円とも言われる経済効果です。冗談や笑いごとではありません）。また、宝飾・健康関連商品の和装販売チャンネルにおける販売実績比率は右肩上がりであり、異業種業界においても和装購買層の実績はバカにできません。

若い世代はどうか？今は自分で和服を着ることが出来る人は少なく、また、子供に着方を教えられる親も少ないと聞きます。その一方、夏には自分の感性で浴衣をコーディネートしたり（和装は普遍的イメージが強いですが、例えば現在主流である袋帯は、実は江戸時代、歌舞伎役者のファッションを当時の人たちが流行で取り入れたも

のです）母親の着物や古着を上手に楽しむ若い世代も存在します。私は次に来る団塊ジュニアと呼ばれる世代の巨大マーケットにも大いに期待しています。

現代、和装は、誤った負のイメージが定着し一般的に過小評価が過ぎているような気がしてなりません。和服は美しく・着やすく・機能的です。日本人が作り上げ育んだ和装には今も「日本古来の伝統と歴史の重み」が現存します。それ故に、長年の歴史により培われた「機能美」と、洋装にもない「魅力と楽しさ」を兼ね備えています。私どもの仕事は、和の「魅力と楽しさ」を一人でも多くの人に伝えることと考えています。

私自身着物を見改めた体験談を少しご紹介いたします。以前、妻（当時は婚約者）と京都に祇園祭を観に行った際の話です。彼女のたつての希望で「舞妓体験」をしに行きました。「舞妓体験」といっても「舞妓遊び」や「芸子遊び」ではありません。ご希望の客に本物の舞妓さんと同じメイクや着付けを施し「舞妓さん」の格好にしてくれるわけです。京都にはこういったサービスを商売として行っている店舗が多数あり、私が利用したお店では、希望であれば誰でも年齢性別を問わず「舞妓さんの姿に変身」させてくれるとのことでした。若い女性だけでなく、ご年配の女性や、男性もオーケー。お店の方の話では、付き添いついでに舞妓になる男性も多いとか…。体験した男性の反応はというと、意外ときれいになった自分にうっとりされるそうです。アゴヒゲを蓄えた外人男性のご依頼は少々大変だったそうですが…（私も薦められました。その時は付き添いで通しました）。

「舞妓になった妻」と「若い癖に舞妓さんを連れ添った自慢げな私」は京の町を闊歩しました。いい気分です。しかし、その時私にはある不安がありました。真夏の炎天下、薄着の私が汗だくになるような暑い日に、彼女は着慣れない舞妓の着物を着て外を歩いたのです。楽しみにしていたがひょっとすると「もう二度と嫌だ」というかも知れないと想像しました…。が…ちがひ

- 住宅投資は団塊ジュニア世代が新規の住宅購入層となりつつあることで潜在的な需要は高まる。ただ、所得環境の好転が見込みにくいことや前年度における住宅ローン減税縮小前の駆け込み需要の反動もあり同▲0.3%と減少する。
- 設備投資は輸出や生産が弱含みとなることや個人消費など内需の勢いも弱くなることに加え、ストック面からの循環的な調整圧力も強まることから減速傾向が明確となる。ただ、企業はリストラを経て収支構造の改善が進んでいることから企業業績は底堅く推移し同+2.8%と小幅ながらも増加が続く。
- 政府消費は同+2.0%と増加する。ウェイトの大きい公務員給与は所得環境の厳しさから伸び悩むが、引き続き高齢化に伴う医療費や介護保険給付金などの負担の増加が見込まれることから漸増推移

となる。  
●公共投資は国、地方ともに財政状況の厳しさが続くことから同▲5.9%と減少を見込む。ただ、災害復旧事業の実施により減少幅は縮小する。  
●輸出は同+4.8%と伸びが低下する。世界経済は引き続き回復の動きが続くものの、原油価格の高止まりや金融引締めなどの影響もあり米国や中国の成長率が鈍化することから輸出の伸びも鈍化する。

昨年は日本経済にとって、バブル崩壊以降の不況の原因である「痛んだバランスシート」が劇的に改善され、再生の道を歩み始めた年であると言えます。今年の景気は上記の通り、昨年に比べるとやや拡大が鈍化し、踊り場に差掛かることが予想されますが、経済環境はこれまでの10年とは大きく異なっています。腰折れの危険性は低

いように思われます。  
日本企業はこれまでに懸命にリストラを行い、その結果生み出されたキャッシュフローの多くを借入金返済に回してきました。今年はその資金が「攻め」に向かう動きが鮮明になるでしょう。  
バブル崩壊以降、デフレの悪影響がこれほど大きなものであったことが予想し得なかったように、デフレ脱却に向けての動きも、今後、予想し得ないほどの大きなインパクトをもたらすことになるかもしれません。  
私ども商工中金はメンバーシップに基づく中小企業専門の政府系金融機関として中小企業の皆様の積極果敢なチャレンジをお手伝いさせて頂きたいと思っております。どうか本年も昨年同様ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。年頭にあたり、皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。



## 酉年男、大いに語る

# “先憂後楽”を貫き、21世紀のスタートの年に。



丸西食品工業株式会社  
社長 西谷 憲三

新年明けましておめでとうございます。今年で6回目の年男を迎え、昔なら古くから稀なる年齢でしたが、現在の平均寿命からして未だ現役の経営者として後継者の育成と会社の改革を進めているところです。21世紀は食の時代ともいわれ、我々の

業界も激しい変化に直面しており、環境の変化における安全安心に対する構造計画、食育や地産地消の整備のための行動計画等、食品業界の一端を荷なう当社としての社会的企業責任を果すことが自社の今後生き延び繁栄を成する道かと考えております。食することの喜び、明日への活力を提供、個性化社会に対する機能食品の開発等々明日に向けての仕事が山積の毎日です。これらのことに対して一念発起して特別なことをするつもりでなく健康第一で、社員より先に会社へ行き明るい顔で社員に挨拶を交し、元気で明るい雰囲気をつくるよう実践し原点に帰っての行動、手のとどるところから始めるよう努めてまいるところ

です。  
昭和27年11月より、旧柴町（現在武蔵町）時代に商売を引継ぎ本年で53年目を迎え、問屋センターへは昭和43年に仲間入りさせて頂き37年を経、その間幾多の問屋センター各社の人間性溢れる先人、先輩の出会いに接し、そのお蔭で今日の我社と自分があると常日頃感謝を致しております。  
夜明を告げる酉年、幕開けの年、暗さから脱却し2005年は21世紀のスタートの年にしたいと思えます。  
私の座右の銘“先憂後楽”とし貫く所存です。

ました。実は、私たちはその後まったく予想もしなかった快感とスター気分を味わいました。妻を本物の舞妓と勘違いした観光客が次々と、妻に声をかけ綺麗と褒めちぎる。一緒に写真を撮らせて欲しいと迫る。私自身も「お若いのに舞妓さんを連れて歩けるなんてすごいですねー」などと羨ましがられる始末。遠巻きからも団体さんの熱い視線と記者会見さながらのフラッシュの嵐を受けました。妻の感想は「最高!! 楽しい!! またしたい!!」でした。

我々と入れ違いで舞妓体験に来た50代のマダム3人組も初めは「私たちの年じゃ芸子がいいところよ〜」と言いながら、戻った後至極ご機嫌で「私たちもいっぱい写真撮られたわよ〜」と楽しそうに話してい

たのが今でも大変印象に残っています。あの時、改めて和装の持つ楽しさを自信を持って多くの人に伝えたいと感じるようになりました。

観光客の多い京都などでは毎年成人式の日、街頭で着物姿の女性たちは、次々と熱い視線とフラッシュの嵐の洗礼を受けるそうです(ちょっとした快感だそうです)。

明治以降、英国式の正装が取り入れられ、日本の正装として洋装が定着しました。しかし、海外でも日本の民族衣装「着物」は、着姿の美しさと、柄の多彩さ、染め織りの巧妙な技法、尺幅の生地から仕立てる際に無駄な余り布を出さない裁縫法等、すばらしい特徴が認められています。

一見身動きしにくそうに見える着物ですが、脇などの締め付けがなく、夏は涼しく、

冬は暖かく、動きやすいものです。

現在ウエディングも教会式が増えていますが、あくまで親族・参列者の第一正装といえば和服です。

最後に、数年前、ラジオのパーソナリティーで行った女性をターゲットとしてアンケートが行われました。「あなたが衝動買いした高額品といえば何ですか?」というアンケートだったのですが、回答のベスト1がダントツで「和服」でした。これは、潜在的な「和服」に対する購買意識の高さと、ユーザーがいつ何処でどうやって「和服」を選び、買えばよいのかわからない、ということを暗に表しています。

「和装離れ」といいますが実は需要は気付かれず、埋もれているだけなのかもしれません。もったいない話です。

「環境は依然厳しい」と言われて久しいですが、飛躍に向け心新たに羽ばたくのが酉年の心意気ととらえたい。協同組合・各

企業とも、厳しくも明るく活力を持って難局を乗り切っていくにはありませんか! その一助となるべく微力ながら本年も精進

致しますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

元気な  
組合員  
企業紹介

## 介護保険法を追い風に、「安心・安全」を追求する介護業界のトップランナー

株式会社トミキライフケア 富木 誠一 社長



2000年に施行された介護保険法によって福祉の世界は大きく塗り替えられたという。昭和34年設立の北陸レントゲンから社名変更し、

それにともない福祉用具・介護用品などの販売サービスを開始したのが昭和61年。それ以後、種々の福祉関連用具のレンタル事業へと着々と事業を拡大していったのがトミキライフケアである。ということは、この新制度はトミキライフケアにとってはまさに追い風、大きく帆を膨らませて大海に漕ぎ出す船のようなのではないかと、という印象に、「介護保険法を見込んで立ち上げたわけではなく、こんな追い風が吹くとは思ってもみませんでした。少子高齢化といわれ、お年寄りが増え、長生きされればされるほどうちの市場は拡大するのでは、という見方をされる方もいらっしゃる。でも、そうでもないんですよ」と語る富木誠一社長。福祉の世界はそう甘い世界ではないらしい。

では、介護保険法の制定で何が大きく変わったのだろうか。2000年以前は、介護・福祉は行政が担うものであり、必要な人に必要なものを貸し出し、施設に入りたいといえばどうぞ施設へ、という具合に国が面倒をみてくれた。ところが財政が苦しくなり、2000年の介護保険法を境に国民からお金を集め、競争原理を導入して民間の力を活用しようというシステムに変わったのだ。

### 「福祉用具消毒工程管理認定」取得で他をリード

介護保険法施行から5年、確かに業界全体が上向きになってきた。しかし、砂糖にありが群がるように石川県の業者数は富山、福井に比べて2~3倍。さらに、今、あちこちでグループホームができていて、これは施設というより家にいるのと同じようなスタイルで面倒を見ようというスタンスでつくられたもので、県内でも特に金沢市では大変な勢いで増えている。この施設にしても業者数にしても人口に対して2~3倍の過密状態で、民間であるがゆえに資格さえ取れば参入できる激しい競争社会なのだという。

そしてもう一つ、お客様は在宅の個人のお客様がほとんどだが、レンタルといっても一般の商品ではなく福祉用具・介護用品であり、ケアマネージャーを通しての納入になる。ケアマネージャーというのは介護サービスを利用するお客様の状態や要望に合わせてどのような介護を、どれくらいの頻度で、家族はどのようなサービスを希望しているかなどを総合的に判断して介護プランを立て、それに基づき実践するプランナーでありアドバイザー。もちろん医療や心理学など様々な知識を持っている。その方たちを通じて商品をレンタルするのであり、ケアマネージャーが直接のお客様になる。だから、実際に必要とされているのところへ直接営業に行くわけではなく、テレビやラジオ、新聞などでどんなに広告を流してもそれがすぐに営業に結びつくわけではないという点が難しいところだ。

そんな状況の中でトミキライフケアが元

気なのは、会社のモットーである『安心・安全』を自社で確保していることが挙げられる。2004年3月には「福祉用具消毒工程管理認定制度」が定められ、貸し出した商品には必ず消毒が義務付けられているが、トミキライフケアは自社消毒洗浄センターを持っており、35名の社員のうち約10名がその仕事に携わっている。そして10月には「福祉用具消毒工程管理認定」を取得、厳しい審査を通過して、当時全国でわずか27社、地元企業ではトミキライフケアただ1社が認定された。

さらに、社員全員が福祉用具専門相談員の資格を取得しているほか、建築士の資格を有した方もおり、実践的な話し合いにも対処できるところが大きな優位点である。というのも、介護が必要な方には様々な症状の方がいて一人一人に応じたものを勧めていかなければならないため、病名、症例を聞けば大体のことが把握できるだけの知識が必要であり、納品や設置の際にも必ず「資格」を持ったものでないと設置は認められない。また、契約書を交わすには法的な知識も必要であり、「資格」が必要なのである。さらに、貸し出し・設置のほか住宅改修の必要に応じることも多く、建築に関する知識がなければ現実に即した話し合いなどできないこともあり、福祉住環境コーディネーター資格を営業担当者の8割が取得している。

こうした様々な角度からの対応が可能で、安心・安全に信頼をプラスできる有能な人材を確保していることが大きな武器になっている。「人が財産です」という富木社長の言葉は、ずっしりとした重みをもって響いてくる。



## 酉年男、大いに語る

# 「といやまちに懸ける思い」



泰和ゴム興業株式会社 取締役 藤本 博司

皆様には旧年中もご指導賜りましたことをこの場をお借りして御礼申し上げますとともに、新年にあたり皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

といやまちで働き始めて5年目を迎えました。30代半ばで本誌への投稿を仰せつかり、現在の率直な思いを綴らせて頂きます。

キマッシカナザワを思うとき、その目標・指針は言うまでもなく組合内企業の繁栄と協同組合金沢問屋センターの発展です。この2つを私自身の活動段階に置き換えると、

経営者(の端くれ)としての自己研鑽と組合活動への参画ということになります。

自己啓発については日頃から様々な勉強(座学や実際の商売)の機会があり思われてはいますが、今後は自社の最高責任者となるに足るだけの「魂」や「気概」の部分を特に鍛えていきたいと思っています。その意味で、昨年開講された『金沢商人塾』は大変な難く、またとない勉強の機会を得ました。現代社会で失われつつある中国古典の貴重なエッセンスをを改めて学び直すきっかけとなり、さらに塾生にとっては(当センター外も含めた)異業種交流の場も提供され、大変有意義な講座が行われて張り切って出席しております。

組合活動への参画は、現在主に2つの活動で関わっております。1つは青年部会(昨年9月に『近代化研究会』より改称)、そしてもう1つは組合運営委員会の任務を2

年前より委嘱されております。青年部会においては自分の立場が中堅になってきて今後のあるべき姿を真剣に考えており、名称を変更した今においても設立当初の「近代化」の志をわすれずに議論・提案・行動を起こしていきたい所存です。これに加え、縁あって組合運営委員会に参加させて頂いたことが、自分の中での青年部会の役割意識をより強くさせたような気がします。すなわち青年部会は若者の親睦にとどまらず、組合内の一構成要素として重要な役割を担うための志や気概を持って、例えば「もし自分が理事会の構成メンバーだったらどう考えるか」くらいの心構えで問題意識を持って活動すべきだと思います。残念ながら青年部会員数は若年人口と同様に減少傾向にあります。これからはそれを補って余りあるくらいの質的發展を期して頑張りたいと考えております。